

卓 話

平成 16 年 8 月 3 日

鵜飼いの世界遺産化に向けて

岐阜大学教育学部 教授 伊東久之様

今年は熊野古道が世界遺産に登録されました。また、知床地方も自然遺産指定のための段階を着実に進めています。「鵜飼いは駄目なのか」と良く聞かれるのですが、私は「放っておいて成れるものではないが、きちんと運動を進めていく価値は充分にある」と答えています。世界遺産は日本の国宝指定とは全く違います。国宝のように、指定をじっと待つような受身の物ではないのです。また、自分たちと似たものが指定されたので、次は自分たちにも可能性があると思って喜んで、二番手や三番手は全く相手にされません。順番待ちではないのです。絶えず新しい考え方で、これに関しては、私たちこそが世界一だという理論化をしていくことが必要です。要は西洋人主体のユネスコ委員さんにアジアの文化をどうアピールするのか。広くは世界の人々に鵜飼いの価値をどう説明するのか、これが一番の問題です。そして、視察があったとき、地元の岐阜市民（日本国民も）が鵜飼いの価値を良く理解して、その存続のための環境整備をどの程度熱心におこなっているかが必ず問われます。岐阜の人が守っていないものを世界が守ってくれるはずなど、ありえないのです。こちらはもっと難しい問題です。そうした事情をよく知ってもらうことが、世界遺産に向けた取り組みの出発点だと思っています。



1. 世界遺産とは

- * 負の遺産も指定。「原爆ドーム」、「アウシュヴィッツ強制収容所」、奴隷貿易基地ゴレ島（セネガル共和国）、南アフリカ共和国黒人政治犯収容所ロベン島など。
 - * 無名、サブカルチャー、国境をまたぐ物などもリストアップ。
 - * 絶えず新しい基準を探求しており、日本の国宝のように上位からの順番待ちではない。
- 「世界遺産の登録基準〈文化遺産〉」
- () 人間の創造的才能を表す傑作であること。
 - () ある期間、あるいは世界のある文化圏において、建築物、技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展において人類の価値の重要な交流を示していること。
 - () 現存する、あるいはすでに消滅してしまった文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは稀な証拠を示していること。
 - () 人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、あるいは建築的または技術的な集合体、あるいは景観に関する優れた見本であること。
 - () ある文化（または複数の文化）を特徴づけるような人類の伝統的集落や土地利用の優れた例であること。特に抗しきれない歴史の流れによってその存続が危うくなっている場合。

() 顕著で普遍的な価値をもつ出来事、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連があること。(きわめて例外的な場合でかつ他の基準と関連している場合のみ適用)

2. 生業遺産で類似のもの

A 採集狩猟遺産

✿ セント・キルダ島の指定

愛嬌のあるバフィンなどの海鳥と、野生に近い羊 - ソイ・シープ Soay Sheep の繁殖地として 1986 年にスコットランド初のユネスコ世界遺産(自然世界遺産)に指定。かつて島民は石積みの家に住み、高い絶壁から命綱を使って断崖を下り、数を決めてフルマカモメを捕獲しながら食用と薬用に利用し、重病人が出るとメールボートを海に流し、本土からの救援を待った。1930 年に島民全員の移住が終了したが、セント・キルダの人たちの生き方は 21 世紀に入って見直されている。

B 農耕牧畜遺産

✿ イフガオの棚田の指定

フィリピン - Rice Terraces of the Philippine Cordilleras。山岳の厳しい自然に抗して人間が築き上げてきた壮大な文化的景観として 1995 年に世界遺産(文化遺産)登録。

西欧化の波に抗し続けてきたイフガオ族を中心とする少数民族の文化的象徴として、政府は積極的に登録申請を進めた。さらに 2001 年に「危機にさらされている世界遺産の一覧表」に追加登録された。

✿ 葡萄・柑橘類畑 地中海に臨む急傾斜面地の難壇状利用 イタリア・ボルトヴェーネレ / チンクェ・テッレおよびその島嶼

C 産業遺産

✿ 製鉄遺跡など数点。

* 漁業と牧畜は未指定。

3. 政府の対応

* 「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」が公開されたのが、2003 年。フィリピンの棚田指定より 8 年後、法整備と指定はなお、これから。

4. 鵜飼いの特色

* 動物を使って獲物を獲る猟法の一つ。鵜飼、カワウソ猟、鷹狩りなど。

* 採集狩猟文化の中でも鵜飼は優れて叡智と工夫を内包した文化的技術。

* 中国の鵜飼は定着的な鯉科の魚を獲る。漁期は一年中。冬が最盛期。初夏に短い禁漁期があるのみ。

* 日本の鵜飼は異動的な遡上魚の一つ、鮎を獲るために特化した漁。漁期は初夏から初秋。冬は餌がなく、さまざまな鵜の越冬手段が工夫されてきた。

* 餌飼・放鳥・里子が主要な越冬方法であるが、岐阜は餌飼の習俗を近年までよく残していた。餌飼習俗は貴重。